

プレカット ニュース

一般社団法人 全国木造住宅機械プレカット協会

東京都千代田区永田町2丁目4番3号永田町ビル6階

TEL 03 (3580) 3215 FAX 03 (3580) 3226

<http://www.precut-kyokai.com>

令和2年度プレカット部材共済会通常総会を開催

— 瑕疵保証付き部材で安全安心の提供を —

全国住宅プレカット部材共済会は、令和2年度第1回理事会・第18回通常総会を令和2年9月29日(火)に永田町ビル6階ます一般社団法人全国木材組合連合会会議室において開催しました。今年は、コロナウイルス感染症の影響を受けて少数の出席者となりましたが、理事会・総会とも定款を満たす委任状の提出等があり、いずれも成立しました。

総会の冒頭、原田会長から「令和元年度事業は、最少目標棟数を734棟として、令和元年8月8日にスタートし、これの達成のため、事業参加会員の皆様にご努力・ご協力をお願いすることで事業に取り組んだが、保証書発行棟数は396棟で事業を終了することになりました。

最近の住宅着工戸数の動向は、年率換算値でみると81万戸から93万戸と振れ幅のある数値で推移し、住宅需要は落ち込みが目立つ状況になっている。このような中で、公共建築物木造化促進等の非住宅分野での一般流通材を使用した木造建築物が増加していることから、会員の皆さんにおいては、今後、需要が見込まれる非住宅分野の木造建築物用プレカット部材供給の新たな販売ツールとして活用していただくと期待しています。

改めて、全会員がプレカット部材瑕疵保証事業の役割の重要性を再認識し、共済会のプレカット部材瑕疵保証事業が会員の相互扶助の精神に基づき充実しつつ、今年度においては、ぜひ目標棟数の確保が図れるよう、会員の皆様の忌憚のないご意見ご助言を頂き、令和2年度事業計画を決定していただきたく、ご審議の程をよろしく願います。」旨の挨拶がありました。

議事では、令和元年度事業報告及び収支決算報告、令和2年度事業計画(案)及び収支予算(案)が提案、承認されました。特に、2年度においては、会員の安定経営のためのリスク保全事業の一部として、29年度から、会員の経営安定のためのリスク保全事業の一部として、プレカットミス賠償責任保険制度による事業を展開してきたが、損害率の悪化により引受保険会社が保険更改を拒否したため、今年度は実施しないことといたしました。また、①共済会とプレカット協会との連携強化、②共済会会員の啓発活動の推進、③顧客への普及活動の強化を重点的に講ずることといたしました。

議事終了後、プレカット部材瑕疵保証事業の協力会社であるM&Kコンサルタンツ(株)大串企画開発部長を交えて、意見交換会を行い、最近の住宅瑕疵保険の現状とプレカット部材瑕疵保証制度に関する情報提供がありました。その中で2019年10月に住宅瑕疵担保履行法完全施行から10年を迎えるにあたり、国交省が今後のあり方について2018年7月より検討会を開催しており、2019年10月には検討会報告書が提出されていることに触れ、その検討会報告書の一部資料の説明がありました。その資料に関連してプレカット瑕疵保証制度について改めて『プレカット瑕疵保証制度はプレカット部材の品質が高いからこそ保証を提供することができる旨のアピールをビルダーに行い、「他社との差別化」や「トラブル防止」に利用して欲しいと伝えることが重要です』と強調されました。

なお、平成29年度からスタートしたプレカットミス賠償責任保険制度について、損害率の悪化により引受保険会社が保険更改を拒否したため、今年度は実施しないことになった経緯等についての報告がありました。

協会会員工場基礎調査結果について（令和元年度第3回）

令和元年12月末現在で調査(工場数35)

1 主要構造材加工設備の保有数等

		なし	1	2	3	4台以上	計	1工場当り 平均保有数	(前年平均)
横架材 加工 ライン	工場数	4	11	11	5	4	35		
	延台数	0	11	22	15	28	76	2.17	(2.05)
	うち金物対応 工場率(%)	0	91	64	100	100	74		
柱 加工 ライン	工場数	3	11	14	3	4	35		
	延台数	0	11	28	9	26	74	2.11	(1.95)
	うち金物対応 工場率(%)	0	61	85	100	75	69		
複合 ライン	工場数	29	5	1	0	0	35		
	延台数	0	5	2	0	0	7	0.20	(0.15)
	うち金物対応 工場率(%)	0	100	0	0	0	17		
ロボ ット	工場数	22	7	6	0	0	35		
	延台数	0	7	12	0	0	19	0.54	(0.38)
合計(延台数)		0	34	63	24	54	175		

2 羽柄材加工設備等の導入状況

		保有台数別工場数					導入を 予定	導入を 検討中	予定 なし	合計
		1台	2台	3台	4台以上	計				
羽柄材 加工 設備	工場数	10	15	4	5	34	0	1	0	35
	割合(%)	28.6	42.8	11.4	14.3	97.1	0	2.9	0	100
	(前年割合(%))	(33.3)	(41.0)	(10.3)	(5.1)	(89.7)	(0)	(5.1)	(5.1)	(100)
パネル 加工 設備	工場数	11	12	4	4	31	1	2	1	35
	割合(%)	31.4	34.3	11.4	11.4	88.5	2.9	5.7	2.9	100
	(前年割合(%))	(43.6)	(28.2)	(5.1)	(7.7)	(84.6)	(0)	(5.1)	(10.3)	(100)
大断面 加工 設備	工場数	12	4	0	0	16	1	1	17	35
	割合(%)	34.3	11.4	0	0	45.7	2.9	2.9	48.5	100
	(前年割合(%))	(30.8)	(2.6)	(0)	(0)	(33.3)	(2.6)	(5.1)	(59.0)	(100)

◇簡単なコメント

- 1 1工場当たりの各加工ラインの数を前回調査時（平成30年12月）と比べると、今回は回答いただいた工場数が35と前回の39より減少しています。このような要因もありましたが、傾向としては横架材加工ライン、柱加工ライン、複合ライン及びロボットの全ての項目において、1工場当たりの保有数は増加していました。最近の横架材加工ライン等でも多様な部材加工が可能となってきたことから、工場の生産効率を高めるため、従来からの既存設備が見直されつつあることも一因とみられます。
- 2 羽柄材加工設備は、1社を除き調査工場で設置されており、また、パネル加工設備も前年同様8割以上の工場で設置されています。この調査項目においても、1工場当たりの保有数は増加していました。既に、これらはプレカット工場にとってスタンダードな設備といえるでしょう。
- 3 一方、近年調査を始めた大断面加工設備は、半数に近い工場で設置され前回と比較してかなりの増加となっています。今後も、導入を検討されている工場も見られ、新たな需要分野である非住宅木造建築物に対応するため、導入が促進されるものと推測されます。

プレカット業況調査 (令和2年8月期)

一般社団法人全国木造住宅機械プレカット協会調べ (回答率: 51%)

設 問	回答比率 (%)			D I	前回 D I
	(1)	(2)	(3)		
1-1 今月の受注額は3ヵ月前と比べて如何ですか。 (1) 好転 (5%以上の伸び) (2) 変わらず (±5%未満) (3) 悪化 (5%以上の減)	13	45	42	-29	-47
1-2 3ヵ月後の受注額をどう予測しますか。 (1) 好転 (5%以上の伸び) (2) 変わらず (±5%未満) (3) 悪化 (5%以上の減)	13	61	26	-13	-64
2-1 貴社の坪当たり平均総加工単価はいくらですか。	答: 5,850円(対前回調査-50円)				
3-1 今月の製品加工単価は3ヵ月前と比べて如何ですか。 (1) 好転 (5%以上の伸び) (2) 変わらず (±5%未満) (3) 悪化 (5%以上の減)	0	90	10	-10	-13
3-2 3ヵ月後の製品加工単価をどう予想しますか。 (1) 好転 (5%以上の伸び) (2) 変わらず (±5%未満) (3) 悪化 (5%以上の減)	0	77	23	-23	-24
4-1 今月の資材(製品)入手状況は如何ですか。 (1) 容易 (2) 変わらず (3) 困難	32	68	0	+32	+19
4-2 3ヵ月後の資材(製品)入手状況をどう予測しますか。 (1) 容易 (2) 変わらず (3) 困難	29	61	10	+19	+16
5-1 今月の収益は3ヵ月前と比べて如何ですか。 (1) 好転 (5%以上の伸び) (2) 変わらず (±5%未満) (3) 悪化 (5%以上の減)	10	51	39	-29	-37
5-2 3ヵ月後の収益をどう予測しますか。 (1) 好転 (5%以上の伸び) (2) 変わらず (±5%未満) (3) 悪化 (5%以上の減)	13	55	32	-19	-68

* D I = (1)の% - (3)の%, +の数値が大きいほど好況、-の数値が大きいほど不況。

* 前回調査: 令和2年5月

◇簡単なコメント

8月の各設問のD Iをみると、受注額については、一部の会員には好転が見られるもの会員の半数近くは悪化しており、今後においても現状より悪化すると予想している。収益についても、悪化が3割強であり、今後も好転予想は少なく3割弱は悪化すると予想している。加工単価については現状では好転はなく、変わらずが大半であるが、3ヵ月後については、いく分下がると予想している。

また、資材の入手状況は、需給環境が軟化してきている影響からか現状、3ヶ月後についても容易予想が困難を上回っている。この結果は、コロナ禍を主因とした経済活動全般が自粛傾向にあり、新設住宅着工戸数が振るわない現状を反映しているものと考えられる。今後は、早期の終息が図られ需要が回復していくことを期待したい。

- 1 受注額のD Iは-29で前回調査時(令和2年5月期)に比べて、少し改善しているが、3ヶ月後の予測のD Iは-13と先行きも予断を許さない状況にあると予想している。今後は、徐々にでも予想を上回るような業況の改善と活性化を期待したい。
- 2 3ヵ月前と比較した製品加工単価のD Iは-10と悪化しているもの大半の会員は変わらずの状況となっている。しかしながら、平均総加工単価も5,850円と3ヵ月前と比べて-50円となっている。3ヵ月後の製品加工単価のD Iは-23となっており、加工単価は今後も弱含みと予想している。
- 3 資材入手状況のD Iは+32で容易となっているが需給関係によるものと思われる。3ヵ月後の予測のD Iは+19と過半数を超える会員は変化なしだが、今後ともいくらかは容易であると見通している。
- 4 3ヵ月前と比べた今月の収益のD Iは-29と半数は変わらずだが悪化がみられている。前回調査時の3ヶ月後の収益予測が-68であったほどではないが状況は悪い。さらに、3ヶ月後の収益予測は-19と、前回の全く好転予想がない状況ではないが、引き続き悪化が好転見通しを上回っている。

～今年度のCAD研修は、WEBセミナーとして開催予定～ — 第1回プレカットCAD技術者育成検討委員会をオンラインで開催 —

今年度最初のプレカットCAD技術者育成検討委員会は、令和2年8月7日（金）にオンライン方式のZoomミーティングにより開催しました。ご承知のとおり、今年の3月開催予定だった2つの研修が、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の一環として中止を余儀なくされ、この状況は現在でも続いていることから、検討委員会もオンラインによる開催となりました。

当協会の事務局としては、初めてのオンライン開催となりましたが、委員の皆様方のご協力によりまして、活発かつスムーズに終わることが出来ました。

今回の委員会では、今年度のCAD技術者研修の実施方針が主な議題となりました。コロナ禍において、どのような実施形態が可能か、オンラインでの開催とした場合の検討課題等が一番の論点となりました。

委員からは、現状での集合研修はやはりリスクがあり、特に県をまたいだ移動を伴う研修会への参加は各プレカット工場とも慎重にならざるをえないと予想されることから、オンライン開催が望ましいという意見が出されました。この数カ月間、社会全体で急速にオンライン化、リモート化が進み、技術的にはWebセミナーの開催を可能にするネットインフラが十分に整いつつあります。一方で、受講側のネット環境や意識にはまだまだ差があることから、事務局側からのフォローが必要であること、考査の実施にあたっては課題を精査するなど別途検討が必要であることといった、Webセミナーならではの注意点や課題を指摘される意見もありました。

これらの委員会での議論を踏まえ、今年度事業の方向性として、

- ①今年度も新規2・3級、登録更新2級、新規1級及び登録更新1級を開催する。
- ②4つの研修ともZoomを利用したWebセミナーとする。
- ③開催募集は、令和2年11月～12月に行う。
- ④開催日時は例年に準拠した日程とする。
- ⑤WEBセミナーは、インターネットでライブ配信し、そのタイミングで受講できなかった受講生には、期間を区切って配信する。

といった大枠が決定いたしました。

現在、Webセミナー開催に向けて実務レベルでの体制整備と、具体的なカリキュラムの見直し等を進めています。詳細は追ってご案内を差し上げますので、ぜひご参加をいただければと思います。

令和2年度第1回プレカットCAD技術者育成検討委員会 名 簿

委員長	蟹澤 宏剛	芝浦工業大学 教授
委 員	小野 泰	ものづくり大学 教授
	鈴木 茂	宮川工機株式会社 業務部
	田口 隆一	ARU田口設計工房 主宰
	野辺 公一	株式会社オプコード研究所 代表取締役
	村上 淳史	村上木構造デザイン室
	森下 佳彦	征矢野建材株式会社 CAD室兼設計室
	山辺 豊彦	有限会社山辺構造設計事務所
部会委員	田村 芳子	株式会社オプコード研究所 研究員